



いまいずみもさわ 中泊町今泉母沢遺跡～近世製鉄遺跡～

遺跡位置

遺跡は、**今泉川母沢**の右岸、津軽山地（中山山脈）より南西方へ派生する台地並びに谷部（標高約20～50m）に位置し、現在は**国有林**となっています。

谷に面した平坦な微高地より、**肥前磁器**・**瀬戸陶器**等、おおよそ19世紀代と推定される**近世陶磁**が採集されています。また、同地点ならびに母沢流域には**鉄滓**（製鉄時に生成される不純物）が濃密に散布することから、近世の**製鉄遺跡**と考えられます。



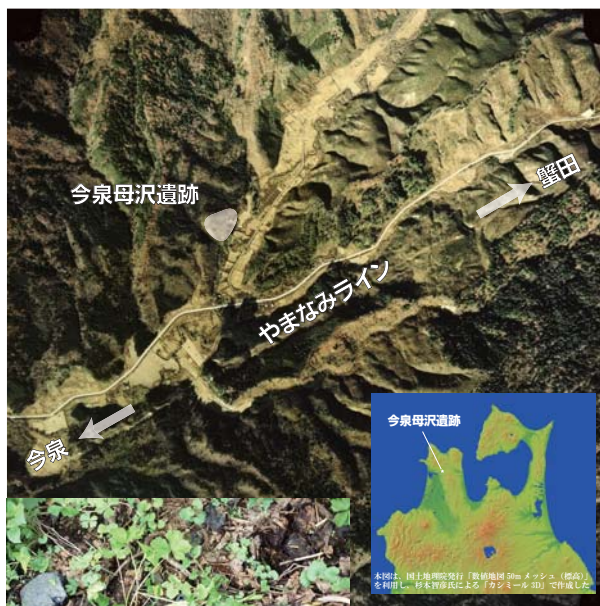
今泉母沢遺跡近景（昭和37年撮影：左・ヤマザクラ、右・山神鳥居）

文献からみた今泉地区の製鉄

『中里町誌』所載の「**鉄山由来（鉄吹手記）**」という成立年代不詳の文献によれば、（当時から）80～90年ほど前に今泉村領「**台所**」においてはじめて鉄を吹立、以後**中村**・**朴木沢**・**小国山**・**湯之沢**・**夏山**・**舞戸**等を転山し、近年**柏木沢**において吹立を行った旨が記されています。**中村**・**舞戸**は現**鯉ヶ沢町**、**小国山**は**外ヶ浜町蟹田**に比定されますが、それ以外についてはすべて**今泉地区**に現存する沢名です。ちなみに、**今泉地区**にはこのほかにも**鍋越沢**・**金平沢**・**タタラ沢**・**出羽金山沢**・**金山沢**などの製鉄に関連がありそうな沢名が残されています。

一方幕末に興された製鉄事業については、弘前藩主15代**津軽承昭**の事績を著した『**承昭公伝**』に詳しく記録されています。同伝によれば、安政6年（1859）**長崎**で製鉄を学んだ鉄工**明珍重吉**ならびに**弘前**の商人**今村万次郎**が、**今泉**において**七里長浜産**の砂鉄を原料としたたたら製鉄をはじめ、万延2年（1861）には**弘前藩**参政**楠美庄司**を奉行として藩営化されましたが、明治以降鉄鉱石を原料とする洋式高炉製鉄が普及し、生産性の低いたたら製鉄は廃業に至ったとされます。

これらの文献から推測するかぎり、**今泉母沢遺跡**出土の鉄滓は、江戸後期から明治初期頃まで操業された鉄山に由来する可能性が高いと考えられます。



今泉母沢遺跡位置図ならびに鉄滓散布状況



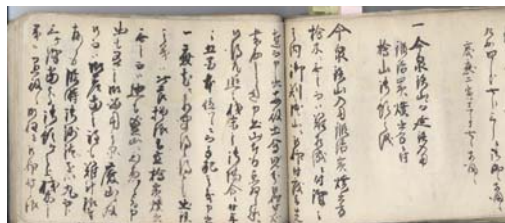
今泉墓地お堂に祀られた鉄塊



今泉地区の鉄信仰

今泉集落墓地には、**鉄塊**を御神体としたお堂があります。同様の信仰は、南部鉄器の産地である**岩手県九戸地方**にも認められ、同地方では最初の鍛冶操業（**初湯**）で生成された「**初金（おぼがね）**」を御神体とする**金山神（金山さま）**信仰が普及していたとされます（岩手県立博物館 1990『北の鉄文化』）。

『内潟村史』にも、**今泉唐崎遺跡（安倍太郎屋敷）**内にある**宝塔様（七面様）**に、鑄流しの鉄を掲げた扁額が奉納されているとの記述があります。宝塔様の扁額は現在見あたりませんが、**今泉墓地お堂**の鉄の御神体は、これらと同種の信仰である可能性があります。



今泉鉄山に関する文献（中泊町博物館蔵）